地域活性化の核となる大学の形成－COC（Center of Community）の整備等－

急激な少子高齢化や地方の過疎化が進行する中、持続的に発展し、活力ある地域を目指すためには、地域コミュニティの中核としての大学の機能を強化する必要がある。

これまでの大学の地域貢献

○大学の教育研究が地域の課題解決に十分応えていない。

○学生が大学で学んだことが、地域に出てから役立っていない。

○地域と教員個々人とのつながりはあっても、大学が組織として地域との連携に取り組んでいない。

これからの地域志向の大学

大学の役割は、**教育・研究・社会貢献**

地域の拠点としてのCOC機能は、全ての大学に求められる機能

・地域の中核となる人材養成
・子育て支援　　・社会人の学び直し
・商店街活性化　　・地元企業支援

地域と一体となった「地域立大学」

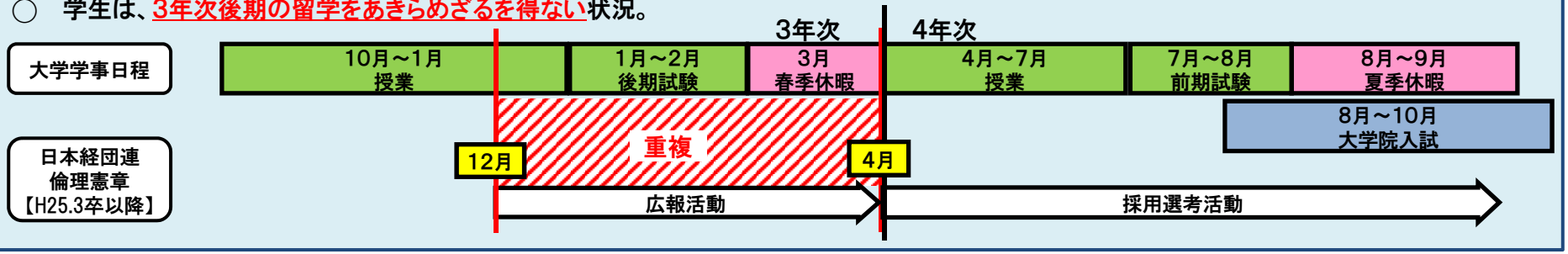
○地元自治体、商工会、NPO等の地域の関係者が、大学・高等教育機関の経営に、より積極的に参画。

○地域への貢献度の抜本的向上
（例）
・地元のヒューマンケアサービス人材の輩出数
・地元教委の小学校教員採用占用率
・地元産業界との共同研究額

学生の就職活動の早期化是正

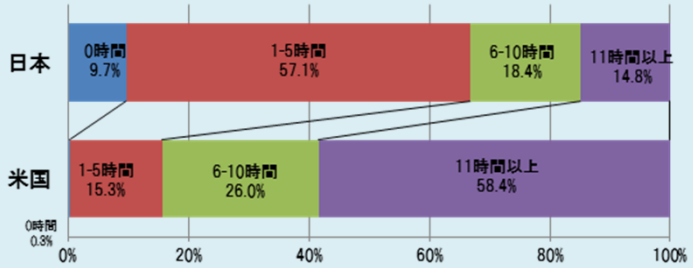
現在の就職活動は3年次から開始

○ 倫理憲章の改訂(H23.3)により広報活動開始が3年次10月から12月となったものの、依然として、大学の授業・試験期間と重複。
○ 学生の成長が最も期待される3年次の教育に支障。
○ 学生は、3年次後期の留学をあきらめざるを得ない状況。



学修時間が少なく、大学教育に支障。また、留学の減少等、グローバル化への対応が停滞

学生の学修時間は少ない

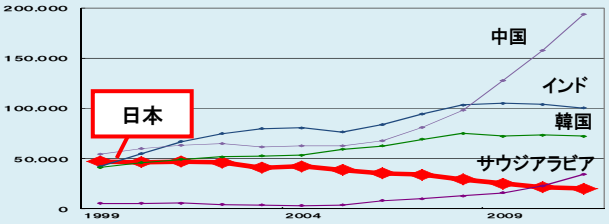


◆授業に関連する学修の時間(1週間当たり)日米の大学の一年生の比較

出典:東京大学 大学経営政策研究センター(CRUMP)『全国大学生調査』2007年、
サンプル数44、905人 http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/ NSSE(The National Survey of Student Engagement)

日本人留学生は減少

○中国、韓国をはじめ、アジア諸国の米国留学は増加。
○一方で、日本は減少。



◆アジア諸国から米国への留学生数の推移

出典:IIE「Open Doors Data:International Students Leading Places of Origin」

日本の大学は世界と比べて劣位

○日本の大学は、トップ100に2校のみ。
○中国のトップ100入りは2校、韓国は3校。

1. カリフォルニア工科大学(米)
2. スタンフォード大学(米)
3. オックスフォード大学(英)
4. ハーバード大学(米)
⋮
27. 東京大学
46. 北京大学(中国)
50. 浦項工科大学(韓国)
52. 清華大学(中国)
54. 京都大学
59. ソウル国立大学(韓国)
68. 韓国科学技術院(韓国)

◆Times Higher Education「World University Rankings」 (2012-13年度のランキング)

学生一人一人の能力を高め、経済活動に参画してもらうことが喫緊の課題

大学の責務

○社会の求める人材の育成
・大学改革の着実な実行
・初年次からのキャリア教育・職業教育の充実

経済界の協力

○学生が就職活動に費やす時間を短く
○留学経験や大学の成績を適切に評価
○インターンシップへの積極的な協力

学生を徹底して鍛える教育環境作り

社会が求める人材像

主体的に学び考え、どんな状況にも対応できる人材

大学教育に求められること　～学生の主体的な学びの確立～

学修時間の実質的な増加・確保により、

① 「答えのない問題」を発見、最善解を導くために必要な専門的知識及び汎用的能力を鍛えること

② 実習や体験活動などの教育によって知的な基礎に裏付けられた技術や技能を身に付けること

大学教育の質的転換のための取組

学修環境の整備に向けた改革を行う大学を重点的に支援。教員と学生とが意思疎通を図りつつ、学生が相互に刺激を与えながら知的に成長する課題解決型の能動的学修を中心とした教育への転換を促進。

小樽商科大学
アクティブラーニングのための教育環境整備

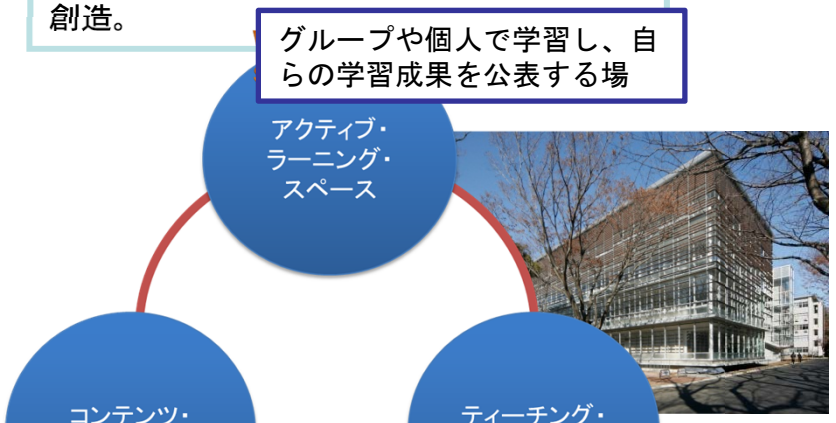
「学生の主体的な学びの確立」を目標とし、実践的な取組を活用したアクティブラーニングのための教育環境を整備。グループワーク、プレゼンテーション、ディベートなどの手法を実践し、学生が自ら考える力やコミュニケーション力を強化する。

学生が意見をタブレットに入力

ディスカッションテーブルに意見やデータを送信し意見交換

千葉大学　アカデミック・リンク・センター

学生が受け身ではなく、自ら問題意識を持って自発的に学ぶことができるように、学習環境とコンテンツ提供環境を一つにする試み。「『学習とコンテンツの近接』による能動的学習」を実現、『考える学生』を創造。



国際基督教大
自発的学修を推進するライティングセンターの整備

図書館の一角に整備されている「ライティングセンター」（修辞上の指導のほか、論文構成・表現力向上に係る助言も行う）を拡張。教員や大学院生チューターが関わり、授業レポートから卒論まで日本語・英語によるサポートを実施。

国立大学の抜本的機能強化（ロードマップ）

24年度 | 25年度

改革の始動期間 → 改革の集中実施期間

国立大学改革強化推進補助金

大胆な改革を重点的に支援

【H24予算：138億円】

大学の枠を越えた連携の推進、個性・特色の明確化などを通じた改革強化に先行的に取り組む国立大学を重点支援

【H25予算：140億円】

大学の枠を越えた連携の推進等に加え、人材の入れ替え、年俸制の導入など人事給与システム改革、学部研究科等の再編等を強力に推進

国立大学の機能の再定義

各大学・学部で重視すべき強み・特色・社会的役割の明確化

教員養成、医学、工学のミッション再定義
≪25年度当初≫

全大学・学部分野のミッション再定義
≪25年央≫

大学・学部の枠を越えた再編成

限られた資源を最大限活用して機能強化を図るため、大学・学部の枠を越えて教育研究組織を再編成。

↓

常に成果をレビューし、新たな教育研究体制へと展開・進化

国立大学改革基本方針

《25年度当初予定》

国として改革の方向性を提示

国立大学改革プラン

《今夏予定》

教育研究組織の再編成に向け、改革の方向性を確定（※）

※国立大学改革プランを踏まえた第三期中期目標の策定・中期計画の認可へ